

キリコ展

11月18日(土) ↓ 12月24日(日)

開館 午前9時〜午後5時(初日は10時開展、金曜日は7時まで) 月曜日は休館
入場料 一般900円、高大生600円、小・中生300円 前売りおよび団体20名様以上は2割引
主催 高松市美術館、読売新聞大阪本社 後援 外務省、文化庁、イタリア大使館、日伊協会

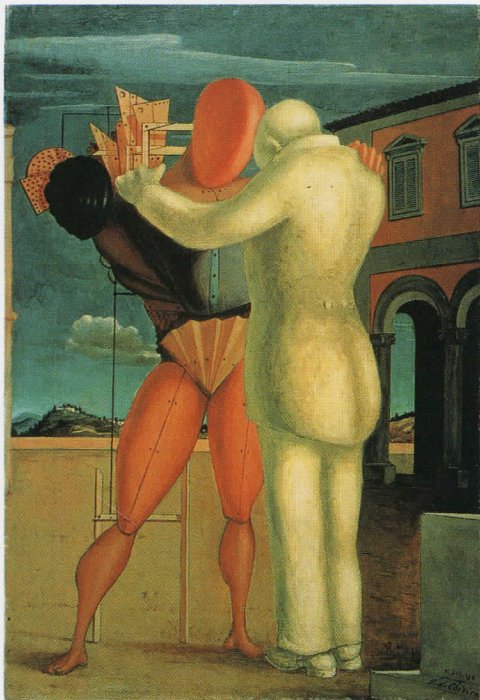


g. de Chirico
1925

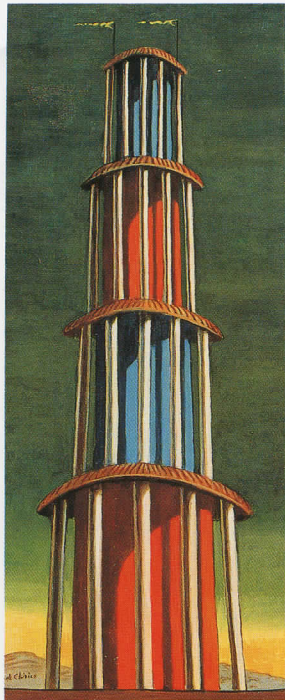
不安からせるミューズたち ローマ国立近代美術館所蔵 ©S.I.A.E. Roma. 1989

高松市美術館

高松市附屋町10-4 TEL.087-8231771



放蕩息子の帰還(1922) ミラノ市現代美術館蔵



塔(1974) デ・キリコ財団蔵

ジョルジョ・デ・キリコは1888年、ギリシアの港町ヴォロスにイタリア人夫婦の長男として生まれました。1906年よりミュンヘン、ミラノ、フィレンツェと移った彼はベックリンの幻想的絵画やニーチェの哲学に強い影響を受け、キリコ自ら「メタフィジック(形而上)絵画」と名付けた独特なスタイルの絵画を描き始めます。これは古代の建築物や広場、静物やマネキンたちを謎めいた神秘性の中に描き出したもので、その作品は一度見たら誰でも忘れられない印象を持つでしょう。時間が停止したような不思議な空間を独特のスタイルとタッチで描き、神秘的な世界を詩的な郷愁の中に作り上げたキリコの絵画は、20世紀初期の様々な芸術に影響を及ぼし、特にシュールレアリスムの画家たちには計り知れない衝撃を与えることとなったのです。

キリコの先駆的な仕事に対する評価は近年ますます高まっていますが、彼の生誕100周年を迎えた現在、今回のような大規模な回顧展が開催されることは大きな意義があるといえるでしょう。この展覧会では、特に高い評価を受けながらも日本ではあまり紹介される機会のなかった1910~20年代の貴重な作品が出品されており、古典絵画に学び作画したこれ以降の作品とともに、90才で没するまでのキリコの長い画業が展覧できます。ローマ国立近代美術館、ミラノ市現代美術館、デ・キリコ財団などの全面的な協力を得て日本初公開作品も多数紹介されるこの「キリコ展」で、キリコの不思議な魅力を十分に味わっていただけることと思います。

講演会

12月3日(日) 午後1時30分より
美術館講堂

講師 ● 千足伸行
(成城大学教授)

演題 ● ジョルジョ・デ・キリコの生涯と作品



ヘクトールとアンドロマケー(1970) デ・キリコ財団蔵



パリのアトリエでの自画像(1934-35)
ローマ国立近代美術館蔵



ヘクトールとアンドロマケー(1973) ローマ、個人蔵

▼ 次回の展覧会

ザッキン展

2月10日(土) ⇒ 3月18日(日)

ロッテルダムの「破壊された都市のための記念碑」で有名なザッキンは、フランスの最も代表的な彫刻家です。二科展に出品するなど日本との関係も深いこの作家の、初期から晩年までの約100点でその魅力を紹介します。